

平成28年度第2回相楽東部広域連合総合教育会議 会議録

1日 時 平成29年3月14日（火）午後3時～4時45分

2場 所 和東町体験交流センター 会議室

3出席者 広域連合長 堀 忠雄
副広域連合長 手仲 圓容
副広域連合長 西村 典夫
教育長 西本 吉生
教育委員職務代理 石橋 常男
教育委員 北口 弘子
教育委員 中井 薫
教育委員 大西 研介

4傍聴人 なし

5議 事

(1) 開会

司 会 山本事務局長

(2) 広域連合長あいさつ

堀 広域連合長

相楽東部広域連合総合教育会議設置要綱第4条に基づき、広域連合長が会議の議長として以下の議事について進行を行った。

(3) 教育に関する「大綱」について

事務局（山本事務局長）から、資料に基づき教育に関する「大綱」改定案について説明を行った。
質疑等の結果、大綱案については、異議なく承認された。

<主な質疑・意見交換>

○教育長

今回の改定内容は、事務局からの意見照会に対して教育委員会として改正の必要があると回答したもので、改正が必要な理由は、次のとおり。

- ・ 1ページ目、1「連合の教育」の基本方針、3広域連合による教育への期待の(4)については、世代毎に異なる住民ニーズをしっかりと捉えた生涯学習の機会を提供していく必要があるため
- ・ 3ページ目、4新たな課題や社会状況の変化に適切に対応する教育、◇高度情報化への対応については、ICTを活用した教育においても、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」が必要であるため
- ・ 4ページ目、IV「連合の教育」の年度別目標については、教育委員会において設定し

た29年度の目標を記載するもので、これは残された課題や新たな課題に対して受け身ではなく積極的、主体的に捉えて対応していくという趣旨

- ・5ページ目のV重点目標と取り組むべき項目、①相楽東部の未来を創造する人づくり、
＜重点目標2＞(4)については、学校教育においても「他者との共生」を重んじる心を
育てていくことが大切であるため

○広域連合長

人間に本来備わった免疫力などが下がってきている。頭でっかちになって、難しいことを避け、楽な方に流れている。都会をまねるのではなく、自然を活かした相楽東部ならではの教育を進めていく必要。

○教育委員

「他者との共生を重んじる心」というのが、他人の良い所を出し合うなど学校現場でも芽生えているのが分かる。小小連携の授業でも、子供たちは、学校が違ってもお互いなじんでいる。

○教育長

学校現場では、魅力のある学校づくりに努めており、この地域内では通わせてよかったと思っただけでも、それだけでは学研地域から相楽東部地域へ移ってくるというのは現実的には難しい。教育委員会と町村長部局とが一緒になって考えていかないといけない。

観光振興などで外からどれだけ人が集まってもらえるか、例えば和東町では観光案内所、南山城村では「道の駅」、笠置町では駅前の整備などに取り組まれているが、それにより外からどれだけ転入があったかを見ておく必要。教育がダメだから外に出ようというのではないと考えている。教育以外の交通の便が悪いことなどで移ろうというのはある。地方創生の取組には期待している。住民が潤うというのではなく、外からどうして人を呼ぶかという観点で首長はがんばってほしい。

○副連合長

幼児期の教育が大事で、物心ついたときにきちんとした躰や挑戦する力、つながる力が身につくのではないかと思っている。3町村の保育園の保育士を交流させる取り組みを始めようとしている。よい学校教育をスタートさせるためには、幼児教育は大変重要。そのために「認定こども園」が出来てきており、保育だけでなく教育もしていくことについて連合としてどう考えていくかは課題。幼児教育がきちんとできないと、小中学校での教育もうまくいかない。行政の責任は重いと考えている。

教育することと教育環境をよくすることはイコールにはならないのではないかと思う。モノがあふれる時代で、やる気を出させるためには、与えすぎないことも大事。役場の1、2年目の職員に対しても、担当以外の業務についても問題意識をもって業務を行ってほしいとはっぱをかけている。人間性、自分で物事を進められるような力を伸ばしていくのが教育の使命。

○広域連合長

環境を整えすぎるのも、逆効果の面もあるのではないか。暑いときは汗を流しながら寒いときは震えながらの方がよい面もあると思う。給食でも都会の学校と同じではなく山菜や地域にあるものを使うことも大事ではないか。

○教育委員

南山城小学校は構造が特殊で、他よりも夏は暑く冬は寒い。予算の問題もあるが、現場の声に耳を傾けていただいて空調整備には取り組んでほしい。若い人が定着しないのは働く場所がないことなども影響している。たまに来るのは良いが実際に生活していくのは大変だということには身にしみているので、教育も含めて発信していくことが大事だと思う。

○教育長

幼児養育は、弱いところだと考えている。保小連携については3町村でも温度差がある。両者がもっと行き来していく必要。小学校側、教育委員会も含めて必要性は認識しているが、保育園側にはその認識がないのではないかと。研修など協力できるものはしていきたい。

○副連合長

保育士の人事交流によって、他の良いところを取り入れるなどしていく必要。

○教育委員

保小中の連携はないのか。

○教育長

ふるさと教育ということで保育園、小学校、中学校の先生が年2回集まって研修を行っている。子どもの情報の交換などを行っているが、形式に流れている感じが否めない。

○副連合長

子どもの数が少なく、一人一人をきちんと見てもらっているが、保育園と小学校のつながりが上手く出来ればと思うので、教育委員会にも手を貸してほしい。

○副連合長

笠置小は、24名であり、一人の児童数の増減が教育環境を大きく変えることになるため、町としてはできる限りの教育の充実、限られた財源の中でも子育て支援を充実させていきたいと考えている。神戸市の六甲山小学校は自然を取り入れた教育をしていることで、わざわざ麓から山の上まで通わせている家庭もある。まだそのようなところを生かし切れていないところがあるのではないかと。身近に有るものを取り入れた教育をしていくべきではと思う。少人数のため、笠置小学校に入れたくないという親御さんもいるが、やむなく笠置小学校に入れた親御さんは、こんなすばらしい小学校はないとおっしゃっていただいている。少人数の良さを十分発揮し、学校と父兄と地域が一体となって、ならではの教育を展開していく必要。そのようなことをPRするために、保育園にも学校便りなどを配って、知ってもらおうとしている。

幼児教育では、京都教育大学と連携の協定を結び、幼児教育のサロンを29年度から実施していく予定だが、3町村で一緒にできればと考えている。

旧暦の行事の中に日本人が忘れかけている心、生活の知恵があり、教育の中に取り入れるとおもしろい発想が出来るのではないかと考えている。

○教育委員

節分の豆まきも散らかるから止めなさいと言われている。

○教育長

和東町は栄養教諭が配慮していて、節分、節句、地産地消も含めて、行事に合わせた献立が考えられている。

(4) その他

<主な意見交換>

○副連合長

中学校の生徒数が激減することについては、教育委員会としてはどう考えているのか。

○教育長

今の3年生が卒業すると、各学年が20人を切ることになるが、まずは、クラブ活動の問題が出てくる。野球は、28年度は単独出場できたが、球技は他にバスケットボール、卓球に限られる。クラブが合同でできないかを学校間で話をしており、日頃の活動は難しいが、例えば夏休みは合同で練習するなど検討していく必要があると考えている。いずれにしても50人を切るのも厳しい状況ではある。

○副連合長

小規模校でも学力の面では心配しないが、大勢の中で切磋琢磨するような環境にないため、上の学校に行ったときに弊害が出てくるのが心配であり、どう担保していくかが課題。

○教育長

連合設立は経費の削減がねらいのひとつであり、教育委員会においても学校現場も含めて経費削減には努めているところではあるが、是非これだけという現場からの声もあるので、それについては、大きな金額のものは仕方ない面もあるが、現場の想いも汲んでいただきたいと思う。

○副連合長

南山城小学校の空調については、助成金もなく、また、現状でも他の小学校と比べて倍以上の電気使用量だが、加えて空調により更に増加することになるので、一度見直してみようというもの。電気の専門家にも入ってもらい設計を見直し、補助金についても村としても要望していきたい。過疎地域にも指定されることで、過疎債の活用も検討していきたい。

○大西教育委員

小小連携で笠置町でのカヌー教室に行かしてもらい、滅多にない機会を学校教育で体験できることは魅力的である。和東町では、湯船のマウンテンバイクのコースへ受け入れが出来るような窓口をつくっていただければと思う。

○副連合長

「自然の家」を村が管理しているが、小学校からはどこも来ていない。利用してもらわないと充実できないので、まずは地元で利用してもらおうようにできないか。